

# 2022年8月23日掲載 輸送経済新聞

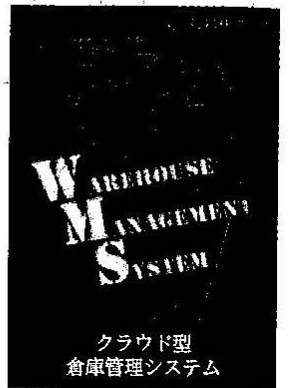
## 独自WMS展開

第一貨物 短期導入、低コストで

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）は独自のWMS「DIBOX（ディーボックス）」を展開している。これまでロジスティクス事業で培ってきたノウハウを基に構築したもの。短期間

での導入が可能で、安全性の高いクラウド型システムを低コストで利用できる。

同社は長年、情報システムに強みを持ち、近年では2015年度から発着荷主に貨物の「今・ど



機は仕分け作業の様子を線で描かれている。近未来的な線が描かれている。

ドタイムもWMSを1から個別につくり込む場合より短縮できる。ニーズに応じた改修も可能。既に導入した顧客からは好評を得ているという。

同社は新たな中期計画で営業・業容の拡大を掲げており、特積みとロジの拡販に加え、利用運送や貸し切りもサービスメニューとして強化し、新規開拓や既存深耕を図っている。WMSも差別化の武器として展開する方針。（矢田 健一郎）

こ「いつ届く」を案内する「到着予報（DSTII）デリバリー・サービス・タイム」を開始。今年6月に商標登録を済ませた独自のWMSは、今年度開始した3カ年中期経営計画のメインテーマに掲げる営業・業容の拡大に向けた武器の一つだ。

### 提案メニュー 加え業容拡大

WMSの特長には、安全・安心のクラウド型システム、低コスト・短期間での導入、どのような業種にも対応可能な汎（はん）用性が挙げられる。システムには、スタートアップから大企業、主要政府機関まで世界で広く利用されているアマゾン・ウェブ・サービス（AWS）を採用し、セキユ